

「里親」の輪のひろがり

「真光寺川を清流にする会」
世話人 山口 拓郎

「里親の会」がスタートして3ヶ月が経った。反響の大きさに驚いている。「めだか基金ポスト」に沢山のお手紙そして善意の基金が寄せられている。真光寺川が多くの人々に親しまれ、安らぎを与えていることがひしひしと実感される。高橋さんが集め「里親通信」を発行して下さる。「めだか基金ポスト」を媒体に真光寺川に思いを寄せる人々の輪がひろがり結びつこうとしている。7月末現在、「真光寺川を清流にする会」33名・「里親の会」38名。基金52,580円・切手寄贈33,200円。

5月のこと(続) - クジラが捕れた!

5月25日

晩酌で寛つろいでいるところへ電話が鳴った。神蔵さんだ。「クジラが捕れた!みんなも来る。来ない?」暗くなつた下堰橋を渡って神蔵邸へ。懐中電灯で照らすと池の底に何やら黒いものが動いている。ナマズだ!優に40cmはあるか。下堰橋下流の淀みで20分にわたる格闘(?)の末、ようやく捕獲したと云う。

五條・宮川・伴・小川・鈴木さん等が集まって来る。お神楽の部屋で早速大漁祝いの酒盛りが始まる。ホタルのこと・メダカのこと・池を掘ること話は尽きない。11時、ようやく散会。ナマズは翌日元の淀みに放された。

5月27日

朝食をとっていると玄関のチャイムが鳴る。小川さんが「清流会」加入4名の名簿を届けて下さる。前夜、能ヶ谷いこい会館の幹部会で話をしたところ町内会長始め幹部が入会して下さることになったとのこと。地元で認知されつつあることは嬉しい。



5月29日

高橋さん来訪「里親の会」の運営について打合せ。
・ポストは10日の間隔で開く
・名簿を作成し登録する
・基金の預金口座を設ける
・毎月「里親通信」を発行する

継続の鍵は透明性とコミュニケーションであろう。煩瑣な事務量は予想を遙かにこえる。高橋さんという有能・誠実な人材をえたことは幸運であった。

6月のこと - めだか池ができた!

6月11日

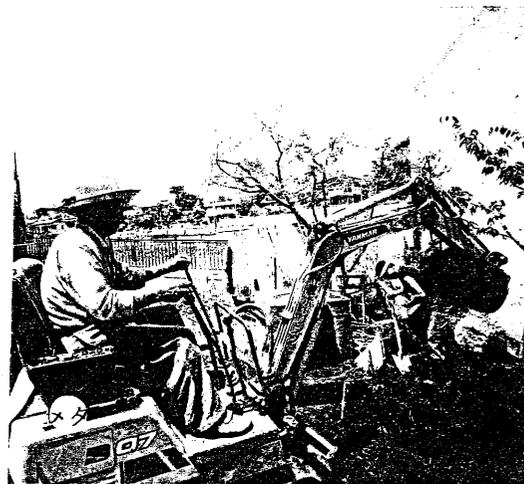
暫く旅行で留守した。能ヶ谷いこい会館の庭に池を造ったと連絡があつた。早速、見に行く。ここには神蔵さんが掘り寄贈された噴水があつた。こんこんと湧き出る水を流してしまうのは勿体ない。池を造つたらと云う話が出ていた。会館の幹事を務めている小川さんが話したところも二もなく賛成されたそうだ。善は急げ!材料を整え有志の労力提供でアッと云う間に完成した。たたみ2畳ほどもあるか。コンクリーの灰汁抜き中とのこと。透明な清水をたたえてしずまりがえつていた。

6月12日

鶴三小の横山先生来訪。6年2組の担当。岡庭君等の案内で下堰橋親水に行きポストをご覧になったそうだ。課外活動として真光寺川での実習を取上げたいとのこと。色々お話し資料をお貸しする。後日、校長先生から丁寧なお電話を頂く。

6月16日 6月度例会

9時半・開戸親水集合。
新たに鈴木、藤木、生江、渡辺、山内さん参加。他に和光小の母子二組。下水道局の沖、守田さんも資料を持って駆けつけて下さる。当日の作戦現場は真光寺駐在所裏から観泉寺を経



て飯守神社前までの間、約1Km。稲作の大切な時期、畦を踏まないように神蔵さんから注意がある。道路ぞいの場所は大変なごみの量だつた。新たに現場で和光小の大川先生、児童・父兄数組が清掃作業に参加される。終了後、能ヶ谷いこい会館で反省会。新会員が加わりニギヤカだつた。

6月24日 - エコネット推進連絡会議
神蔵さんに「真光寺川の今昔」につきお話してもらう。

・昔の谷戸の風景・村のくらし・魚のこと
・与老の話・群をはぐれた鳥のこと・地元と云うこと等々
巧みな語り口で飽かせなかつた。いずれ要約を作成したい。エコネット通信別冊として発行したら喜ばれるのではなかろうか。

6月28日 - 南多摩東部建設事務所との懇談
懇談だった懇談が実現する。

南東建:角田係長・白沢さん
エコネット:松尾さん以下10名出席。
角田係長のお話は率直で判りやすかつた。
・南東建のミッションは第一義的には治水であること
・川の中・堤防側面・測道は全て南東建の管轄であること
・管理思想は閉鎖型から開放型へ移りつつある

こと

・環境重視の考えが取り入れつつあること等
質疑応答の時間を取ってもらい相互理解を深めることができ大変有意義だった。

6月29日

「これか行つてもいいですか」鶴三小の岡庭啓太君から電話。数分後現れた彼はビニールの袋を差し出す。1円・5円・10円・50円・100円のコインが10個・20個とセロテープで束ねてある。1000札が1枚。「これは横山先生の分」計3862円。クラスで集めためだか基金だと云う。手にずしりと重たく感じた。

6月30日

小川さんのアレンジで「池」のことにつき中村町内会長と打合せ。中村さんは既に清流会に加入して頂いている。
・材料費37000円は町内会・会館・里親の会が三分割して負担する
・池の管理は清流会が分担する
・名前は「めだか池」とする等
池の側の板張りの糞の子の上で車座になり冷たいビールをご馳走になる。

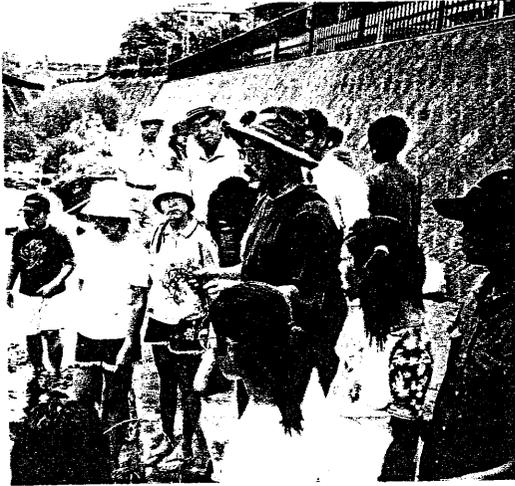
7月度のこと - コイを捌けあげました

7月某日

「里親通信3号」(6月29日発行)に通常の記事にそえて「会員の皆様へお詫びとお願い」が掲載された。会員の増加に伴い今後は「里親通信」をポスト脇にさげてあるあるビニール袋に入れておくので自由にお取り下さいと云う主旨だった。高橋さんのところへ二田紀子さんからお手紙が来た。「通信費にお使い下さい」そして32,400円の切手シートが添えられていた。世の中には何と奇特な方がいることだろう。高橋さんからのお電話を受けて暫く呆然としていた。

7月7日 - 鶴三小・6年2組・課外実習

9時半、下堰橋親水にとりどりの色彩の花が咲く。児童30数名、父兄10数名、横山先生、荒井校長先生。清流会有志とあいさつを交わす。横山先生の指導で観察が進められる。
・植物の観測・鳥の観測・魚の観測・PHの測定
・透視度の測定
植物は伴さん、鳥は山本さん、魚は五條さんが判りやすく解説する。そして自由課題、川に入ってそれぞれのテーマに



手紙の中の一通を紹介してみよう

鳥の先生に

A・K

7月7日に鳥を教えて下さりありがとうございました。今まで見てきた川にこんなに鳥がいると知っておどろきました。一番うれしかったのはカワセミを見た事でした。(一部略)「今の時期、カイツブリがたまごをあためているよ」と聞いてさらにおどろきました。いろんな鳥を見て本当に楽しかったです。この事を次ぎの活動に生かしていきたいとおもいます。本当にありがとうございました。

7月14日

和光小・4年1組・平井あゆかさんから「活動に、
ついてのアンケート」が届く。記入して手紙をそ
えて返送する。

7月16日

小川さんが能ヶ谷こい会館の機関誌「かわらば
ん」を届けて下さる。清流会のグリーン作戦が写
真入りで紹介されている。着実に地元で根付きつ
つあるのだろうか。

あとがき

今あらためて5月から7月をふりかえって見ると
「里親の会」が歩み始めた3ヶ月であつた。
銀色の「ポスト」は人々の心の奥に秘かに抱かれ
ていた真光寺川に対する思いを鮮やかに顕在化し
てくれた。そして仲間意識が芽生えつつあるよう
に思う。将に魔法の箱である。
地域とのきずな・子供達との交流等既に豊かなみ
のりをもたらした。そして更に明るい展開が予感
される。みんなで大切に育んでいきたい。



楽しみながら取り組む。

ザリガニ・オイカワ・ヨシノボリ等の捕獲に歓声！
60センチ余りのコイが喉に釣針・釣糸に引っか
けているのを発見。3人掛かりで網にすくい上げ
暴れるコイを押さえつけようやく外す。開放。
鳥のグループは10数名、山本さんが1Km上流
にある神明の調整池に案内する。中の島でカイツ
ブリが卵を抱えているところやカワセミが水面を
掠めて飛ぶところが観測されたようだ。
やがて少女数名が水に入り二手に分かれる。
ジャンケンして勝組が負組に水をかける。悲鳴と
歓声が交叉する。水沫が空中に虹色の弧を描いた。

7月8日一例会

9時半、開戸親水集合。山岡夫妻が新参加。鶴三小
の3少年に隣りのクラスの井上、木村君が加わり5
名参加となる。
開戸親水から下堰橋親水まで約1Kmのグリーン作
戦。弁当のカラがビニールの袋に詰められ異臭を放
っている。始末したつもりだろうか。
流石に自転車や家電の大物はなくなつた。
上からフェンス越しに声をかけられる。里親通信が
地域への理解を深めてくれたのだろうか。
反省会は少年達も加わりニギヤカだった。

7月9日

鶴三小の横山先生来訪。
前日のまとめをしたらいい結果が得られたようだ。
植物・魚・鳥・その他にまとめた模造紙を見せて
下さる。児童の感性は素晴らしい。クラスに活気
が出てきたようだ。
子供達の手紙を30数通持参して下さる。文面か
ら真光寺川にふれた喜びが伝わって来た。
8月の例会で会員に披露したいと胸が弾む。